令和 8 年度 第 3 回陸前高田市立小中学校の在り方検討委員会

会議概要

1　日時

令和 8 年 10 月 15 日（月）午後 3 時～午後 4 時 30 分

2　場所

陸前高田市コミュニティホール

3　出席者

委員

別紙（名簿）のとおり

事務局

教育長職務代理者、教育次長、学校教育課長、学校教育課職員

4　内容

（1）開会

（2）教育長職務代理者あいさつ

少子化に伴う児童生徒減少など将来の教育環境の変化を見据え、子どもたちにとってより良い教育環境を確保するため検討を進めている旨、またアンケート結果を共有し今年度内の答申に向けて審議を深めていきたい旨のあいさつが行われた。

（3）委員長あいさつ

8 月に実施した市民アンケートおよび保護者アンケートの結果がまとまったことから、本日はその内容について共有を受け議論したい旨のあいさつが行われた。

（4）議事

以下の事項について資料に基づき説明および協議が行われた。

① 市民アンケート調査結果について
② 保護者アンケート調査結果について
③ 今後のスケジュール等について
④ その他

（5）その他

事務局より次回日程等の連絡を行った。

（6）閉会

5　主な質疑・意見

○ 市民アンケート調査結果について

・及川委員　毎年の出生数等の具体データを提示することで、複式学級の問題の深刻さをより理解してもらえるのではないかとの意見があった。

・事務局　今後の地域説明会等でそのような数値資料を提示していきたい旨を説明した。

・石川委員　学校が地域コミュニティの拠点とされている点について、統合後も児童は地域に残り行事参加は地域側の課題であるため、学校がないから協力が得られないと捉えるのは異なるのではないかとの質問・意見があった。

・事務局　コミュニティセンター等を中心とした地域行事に児童が関わる重要性を踏まえ、今後の地域や施設のあり方を考えていく必要がある旨を説明した。

○ 保護者アンケート調査結果について

・事務局　前段の回答に対する補足として、地域学校協働活動（見守り、地域学習、伝統芸能等）を通じて地域と学校が密接に関わっている実態がアンケート意見にも表れている旨を説明した。

・松村委員　学区外就学の世帯数について質問があり、事務局より約 20 世帯（主に小学校）が学区外就学をしている旨を回答した。

・吉田（雄）委員　児童にとって望ましい学習環境の確保を最優先とし、出生数推移や統合時の校舎活用（小中一貫校の可能性を含む）、長期的なロードマップを示す必要がある旨の意見があった。

・吉田（司）委員　学校残存・統合に伴う維持管理費や解体費など、費用面の比較・説明があれば市民の関心や理解が高まるのではないかとの意見があった。

・事務局　統合後の検討や維持費等の比較は重要であり、次回地域説明会に向けて資料を準備したい旨を説明した。

○ 今後のスケジュール等について

・阿部委員　答申案の具体性やイメージについて質問があった。

・事務局　具体的な学校の組み合わせではなく、「複式学級解消に向けた時期や基本方針」を示す答申とし、詳細計画は次年度以降検討する想定である旨を説明した。

・石川委員　市民アンケート回収率（39%）を踏まえ、市民の関心度や説明会集客への懸念が示された。

・事務局　市総合計画調査等と同程度の回収率であり、全体傾向は把握できている旨を説明した。

・吉田（司）委員　地域説明会の周知方法について質問があり、折込チラシの有効性が提案された。

・事務局　広報、保護者連絡システム、SNS 等を活用し周知を図る旨を説明した。

・吉田（和）委員・佐々木委員　児童・教職員（支援員・用務員含む）アンケートの項目案や、教職員の経験の有無に応じた配慮について質問・意見があった。

・事務局　立場ごとの考えを把握できるよう、意見を踏まえて調査項目を検討していく旨を説明した。

○ その他

・阿部委員　学校統合に伴う学童保育（送迎・場所・定員）への影響について、関係部署と連携して検討するよう求めた。

・事務局　関係部署と共有し検討を進めていく旨を回答した。

・及川委員　保育園の将来的な園児数減少を見据え、5 年後・10 年後を見据えたシミュレーションが必要である旨の意見があった。

・事務局　シミュレーションを行っていく旨を回答した。

・伊東委員　地域影響を気にするアンケート結果を踏まえ、さらに関心を高める工夫が必要である旨の意見があった。

・事務局　さらなる関心向上のため検討を進める旨を回答した。

・伊藤委員　アンケート結果は将来の児童数や学校運営の方向性を客観的に示しており、地域説明会での説明材料として有用である旨の発言があった。